

年 組 名前：

風林火山

「読者に何を一番伝えたいか。もう一回突き詰めて考えてみる」。記者の企画がデスクから突き返された。同業者としてデスクの言葉が胸に染みる。NHKの朝ドラ「ちむどんどん」に新聞社のデスクが登場する▼記者に的確な指示を出し、仕事には厳しいが人間味あふれる田良島デスクだ。主人公の暢子を励ます「料理と新聞記事は同じ」という言葉もあった。誰かを思い浮かべ、その人のため、その人に向かって作るのだと▼「思い入れの強い企画で陥るパターン」として「詰め込みすぎて整理が追い付かない」という指摘は耳が痛い。取材のポイントを外し「それを聞き出すのが俺たちの仕事だろ」には思わず身がすくんだ▼作・脚本は上野原中、日大明誠高出身の羽原大介さん。映画「フラガール」や朝ドラ「マッサン」を手掛けた。暢子の気になる存在、記者役の宮沢氷魚さんは、甲府市出身のミュージシャン宮沢和史さんの長男で、山梨との縁も感じる▼和史さんは「島唄」を30年前に発表して以来、沖縄にこだわり続ける。氷魚さん演じる記者が沖縄の文化、歴史に関心を持ち、戦没者の遺骨収集の記事を手掛けようとする姿は現実と重なる▼新聞社で仕事をした暢子は「新聞には身近なことがいっぱい書いてある。世の中の出来事は回り回って、必ず自分とつながっているって思いました」とデスクに語る。そう。肝(心)が「どんどん」する記事を書かなければ。(杉)

(2022年7月14日付 山梨日日新聞1面)

※ 「ちむどんどん」とは、沖縄の方言で、「胸がわくわくする」という意味です。

問1

NHKの朝ドラ「ちむどんどん」の作・脚本の羽原大介さんと、記者役の宮沢氷魚さんは、山梨県に縁のある人です。どのような縁でしょうか。

羽原大介さん .....

宮沢氷魚さん .....

問2

ドラマのヒロインは、新聞社の仕事で、何を思いましたか。

.....  
 .....

問3

あなたが、「ちむどんどん」した思い出を、書いてください。

.....  
 .....  
 .....